

2013年3月期(平成25年3月期)

第2四半期決算説明会

2012年11月19日

株式会社ジャムコ

技術のジャムコは、 士魂の気概をもって

- 一、夢の実現にむけて挑戦しつづけます。
- 一、お客様の喜びと社員の幸せを求めています。
- 一、自然との共生をはかり、豊かな社会づくりに貢献します。

- この資料に掲載されている情報のうち歴史的事実以外のものは、発表時点で入手可能な情報に基づく当社の経営陣の判断による将来に関する見通しであり、経済動向、為替レート、市場需要、税制や諸制度に関するさまざまなリスクや不確実な要素を含んでおります。実際の業績はこれらの見通しとは異なる結果があり得ることをご承知おきください。
- この資料における数値は、表示桁未満を四捨五入して作成、表示しております。したがって、決算短信、有価証券報告書など、表示桁未満を切捨てにて作成、表示している資料とは末尾数値が異なる箇所がございますのでご了承ください。
- この資料に掲載されているセグメント売上高及びセグメント経常利益は、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成22年6月30日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号平成20年3月21日)を適用しております。
- 本資料を(株)ジャムコの許可無く転載・複写することを禁じます。又、本資料を使用することにより生じたいかなる損害について(株)ジャムコは一切責任を負いません。

Contents

I 2013年3月期 第2四半期決算の状況

グループ各社の状況(FY12/上期).....	4
業績概要(連結).....	5
売上高(連結).....	6
経常利益(連結).....	7
第2四半期決算のポイント.....	8
貸借対照表(連結).....	9
減価償却費/設備投資額/試験研究費(連結).....	10

II 2013年3月期 通期見通し

売上高/経常利益(連結).....	12
売上高/経常利益(連結四半期).....	13
内装品セグメント.....	14
機器製造セグメント.....	15
整備セグメント.....	16
連結受注状況 実績及び見通し.....	17

III 経営環境と今後の対応

経営環境と市場動向.....	19
今後の課題と対応.....	22
内装品セグメント/機器製造セグメント /整備セグメント	

2013年3月期 第2四半期決算の状況

CATEGORY	グループ各社の状況 (FY12／上期)	4
	業績概要 (連結)	5
	売上高 (連結)	6
	経常利益 (連結)	7
	第2四半期 決算のポイント	8
	貸借対照表 (連結)	9
	減価償却費／設備投資額／試験研究費 (連結)	10

グループ各社の状況 (FY12/上期)

【単位:百万円】

	当 社	新潟 ジャムコ	宮崎 ジャムコ	ジャムコ アメリカ	ジャムコ ヨーロッパ	ジャムコ エアロデザイン エンジニアリング	ジャムコ フィリピン	徳島 ジャムコ	ジャムコ エアロテック	その他	シンガポール ジャムコ
売上高	19,858	1,138	934	4,407	433	655	26	392	145	0	1,309
営業利益	476	△ 87	20	△ 5	△ 22	59	△ 42	16	△ 4	6	△ 1
経常利益	118	△ 77	18	△ 69	△ 17	60	△ 44	15	△ 4	6	0
当期純利益	19	△ 49	11	△ 52	△ 17	43	△ 44	9	△ 3	4	0

(注1) 「その他」はオレンジ ジャムコ、ジャムコ テクニカル センターの合算値です。

(注2) シンガポール ジャムコは持分法適用関連会社です。

(注3) ジャムコ アメリカは787関連開発費の償却について当社と同じ基準(日本基準)で会計処理しています。

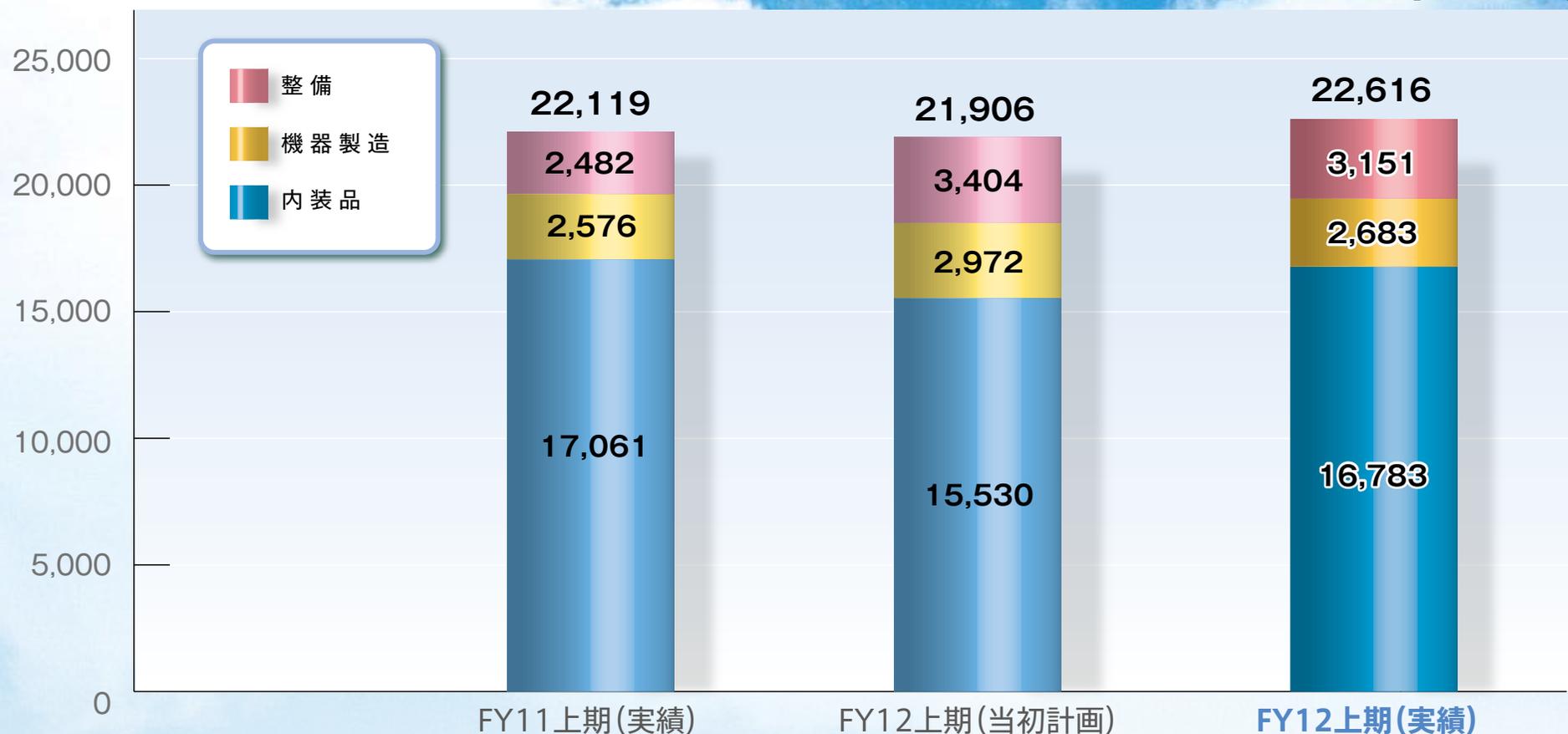
業績概要 (連結)

【単位:百万円】

	FY12上期 実績	FY11上期 実績	前年同期比	FY12上期 当初計画	計画比
売上高	22,616	22,119	+2%	21,906	+3%
営業利益	308	△ 1,422	—	427	—
経常利益	△ 104	△ 2,058	—	277	—
税引前当期純利益	△ 135	△ 2,199	—	277	—
当期純利益	△ 152	△ 1,281	—	127	—
1株当たり 当期純利益(円)	△ 5.67	△ 47.76	—	4.75	—
売上為替レート (円/USドル)	79.67	80.16	—	78.00	—

(注) 当初計画とは、2012年5月11日の決算発表時の業績予想数値です。

【単位:百万円】



POINT

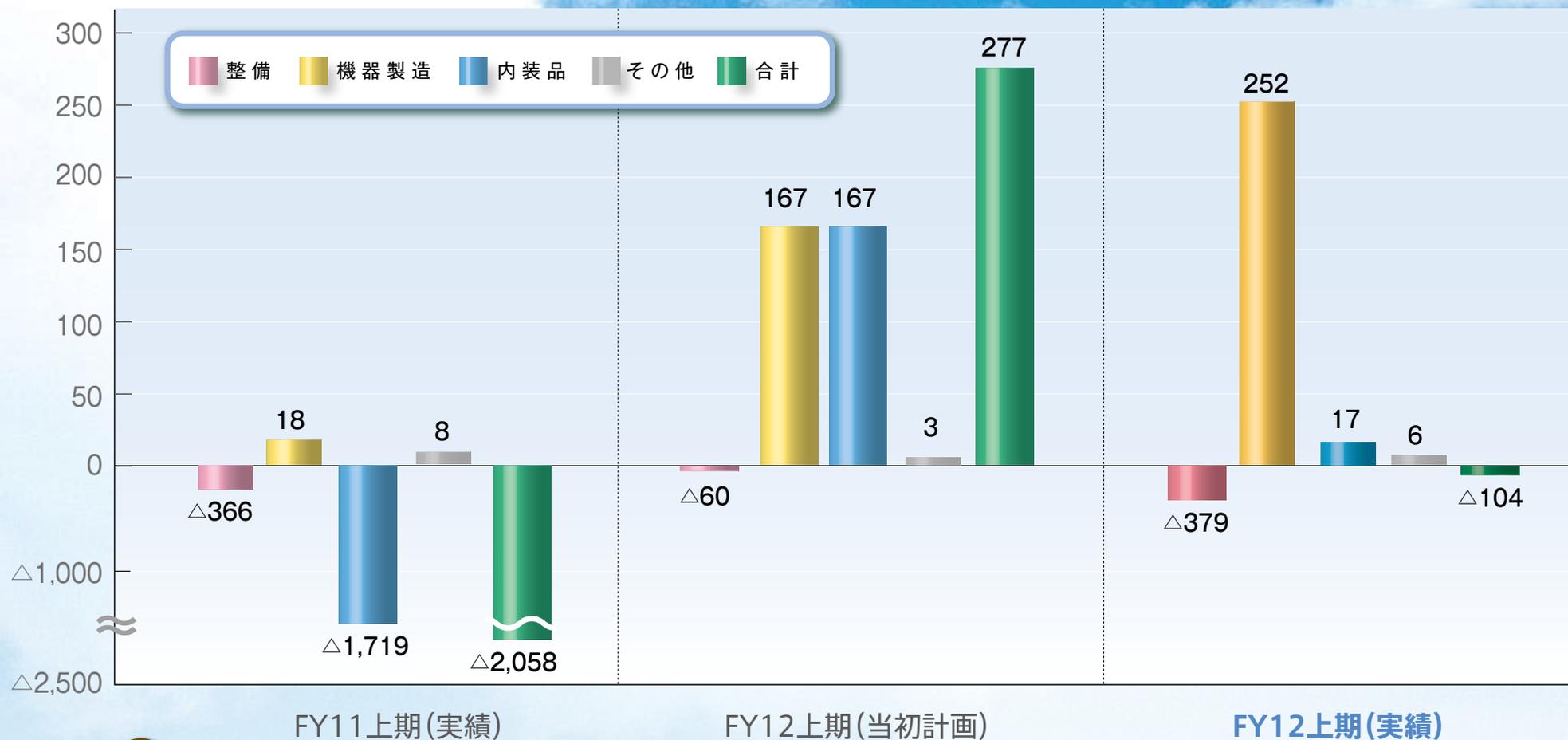
FY12当初計画対比

- 内装品はギャラリー等のBFE関係の出荷が好調で増加
- 機器製造は顧客のスケジュール変更によりADPの売上が減少
- 整備は顧客先の機体整備スケジュール変更により減少

(注) 当初計画とは、2012年5月11日の決算発表時の業績予想数値です。

経常利益 (連結)

【単位:百万円】



POINT

FY12当初計画対比

- 整備は受注量不足による操業度の低下、及び採算性の悪い工事の完成により悪化
- 機器は採算の良い熱交換器等の出荷が集中したことで増益
- 内装品は営業利益は計画を上回ったものの、前期末為替評価差益の洗い替えによる為替差損、及び9月末売掛債権為替評価差損により減益

(注) 当初計画とは、2012年5月11日の決算発表時の業績予想数値です。

前年同期比

【単位:百万円】

	FY12 上期 実績	FY11上期 実績	差異
経常利益	△ 104	△ 2,058	1,954
売上総利益	2,902	837	2,065
販管費	2,594	2,259	335
営業外損益	△ 412	△ 636	224

当初計画比

【単位:百万円】

	FY12上期 実績	FY12 上期 当初計画	差異
経常利益	△ 104	277	△ 381
売上総利益	2,902	3,109	△ 207
販管費	2,594	2,683	△ 89
営業外損益	△ 412	△ 149	△ 263

(注) 当初計画とは、2012年5月11日の決算発表時の業績予想数値です。

POINT

● 前年同期比

売上総利益：工事損失引当金繰入減少、スペアパーツ販売の増加、他原価低減効果。

販管費：震災復旧からの正常稼働に伴い増加。

営業外費用：為替差損 FY11上期 5.06億円、FY12期 2.85億円。

● 当初計画比

売上総利益：整備の受注量不足による操業度の低下及び採算性の悪い工事の完成により悪化。

販管費：試験研究費の減少。

営業外費用：前期末為替評価差益の洗い替えによる為替差損、及び9月末売掛債権為替評価差損の発生。

貸借対照表 (連結)

【単位:百万円】

科目	FY12 2Q 末 2012年9月30日現在	FY11 末 2012年3月31日現在
〈資産の部〉		
流動資産		
● 現金及び預金	1,838	2,902
● 受取手形及び売掛金	13,486	14,929
● 棚卸資産	24,323	22,360
その他流動資産	3,562	3,674
流動資産合計	43,209	43,865
固定資産		
● 有形固定資産	9,372	8,804
● 無形固定資産	1,141	1,028
投資その他の資産	3,065	3,173
固定資産合計	13,578	13,005
資産合計	56,787	56,870

【単位:百万円】

科目	FY12 2Q 末 2012年9月30日現在	FY11 末 2012年3月31日現在
〈負債の部〉		
流動負債		
● 支払手形及び買掛金	6,869	7,440
短期借入金	17,644	17,767
その他流動負債	6,514	6,280
流動負債合計	31,027	31,487
固定負債		
● 長期借入金	4,454	3,624
その他固定負債	6,277	6,397
固定負債合計	10,731	10,021
負債合計	41,758	41,508
〈純資産の部〉		
純資産合計	15,028	15,362
負債及び純資産合計	56,787	56,870

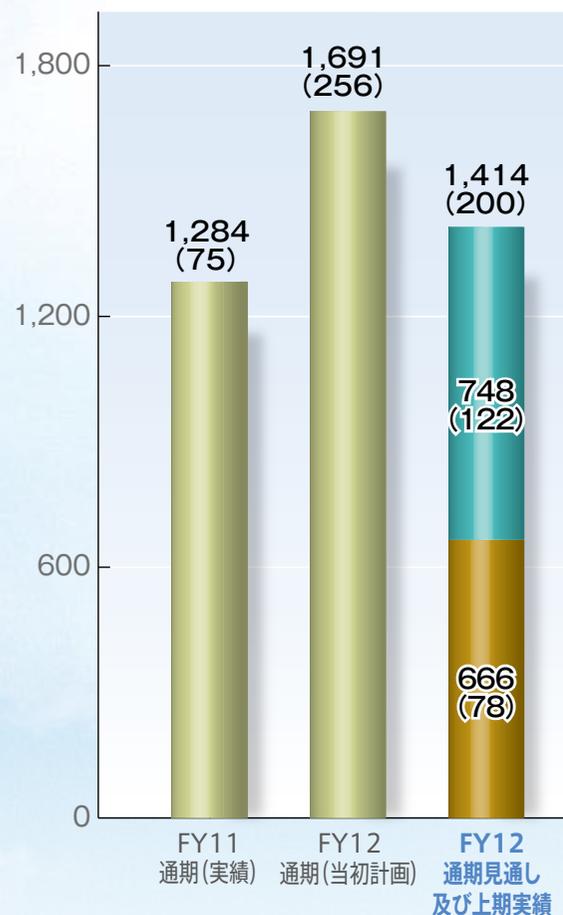
POINT

売上債権の回収、借入金の増加はあったが、棚卸資産増加、設備投資による固定資産増加、買掛債務の減少などにより、現預金は減少。

【単位：百万円】

減価償却費（連結）

■ 下期 ■ 上期



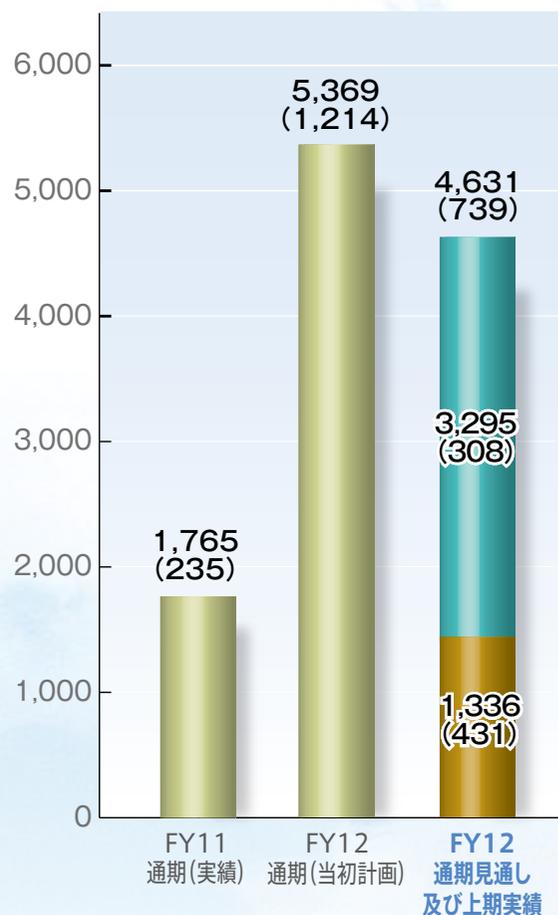
()内はリース資産分

(注) 通期見通しの上期は実績値です。

【単位：百万円】

設備投資額（連結）

■ 下期 ■ 上期

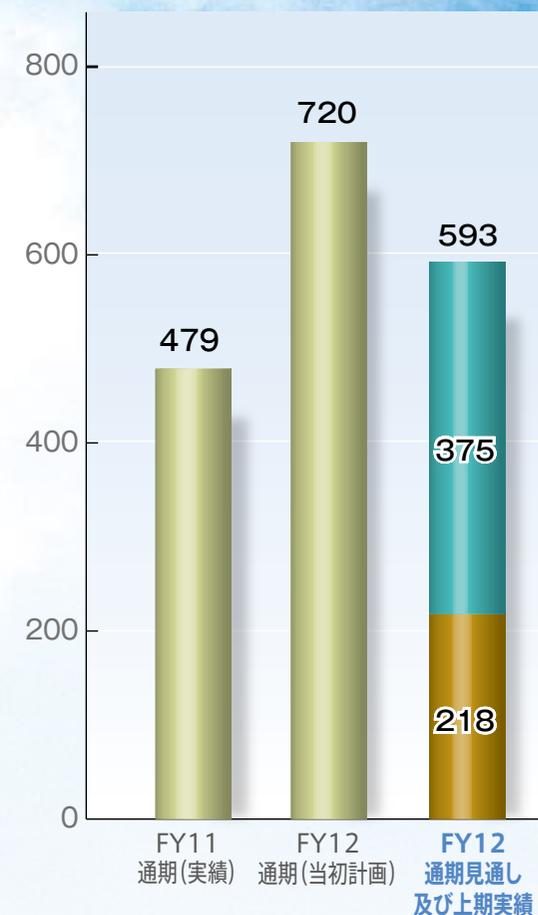


設備投資には()内の全リース物件を含む

【単位：百万円】

試験研究費（連結）

■ 下期 ■ 上期



2013年3月期 通期見通し

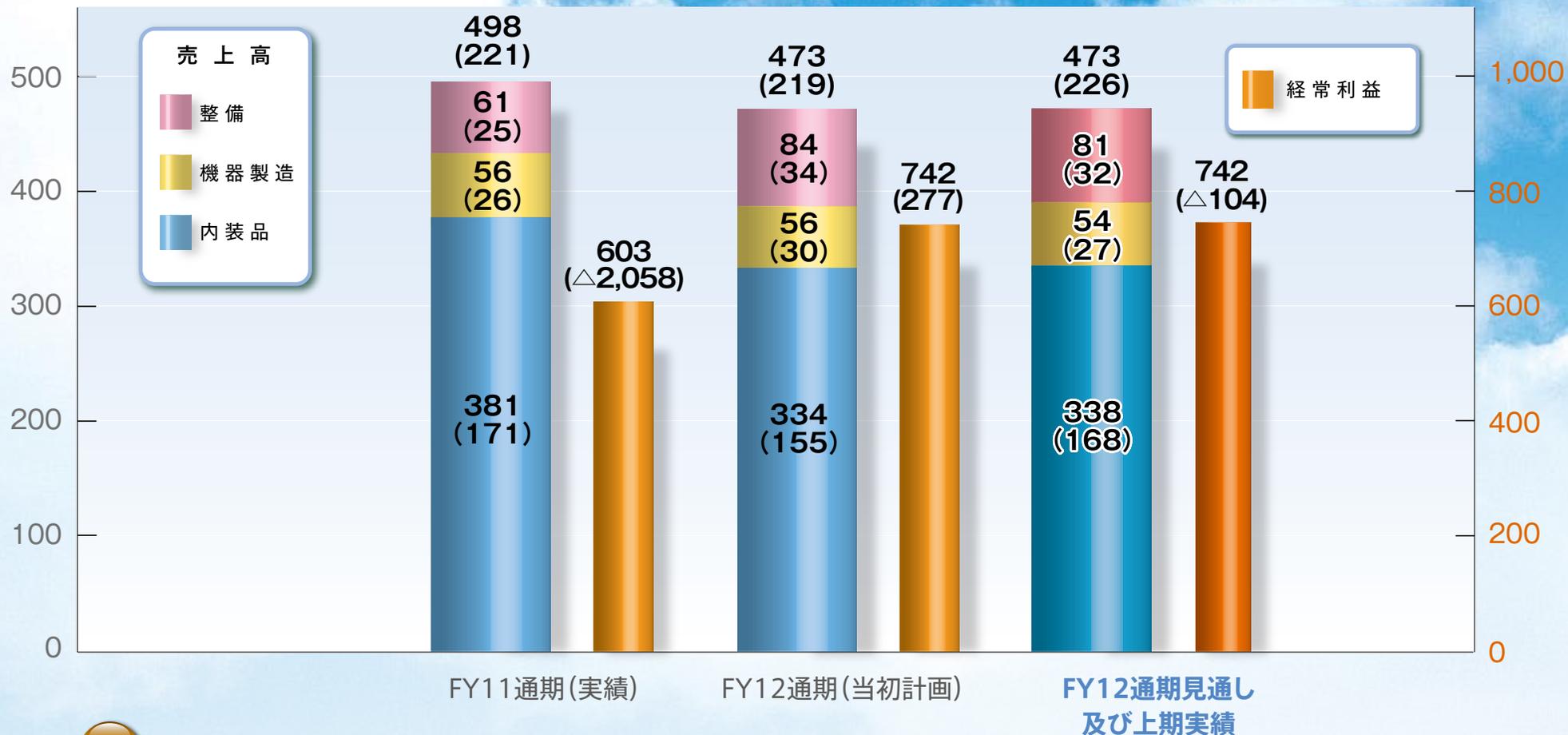


売上高/ 経常利益 (連結)	12
売上高/ 経常利益 (連結四半期)	13
内装品セグメント	14
機器製造セグメント	15
整備セグメント	16
連結受注状況 実績及び見通し	17

売上高／経常利益 (連結)

【単位：億円】

【単位：百万円】



POINT

- 下期以降の想定為替レートは当初計画と同じ78円/USドル
- 整備は下期売上、操業度ともに平常レベルへ戻り、採算性改善
- 内装品・機器製造ともに通期でも売上・利益ともに堅調に推移する見込み

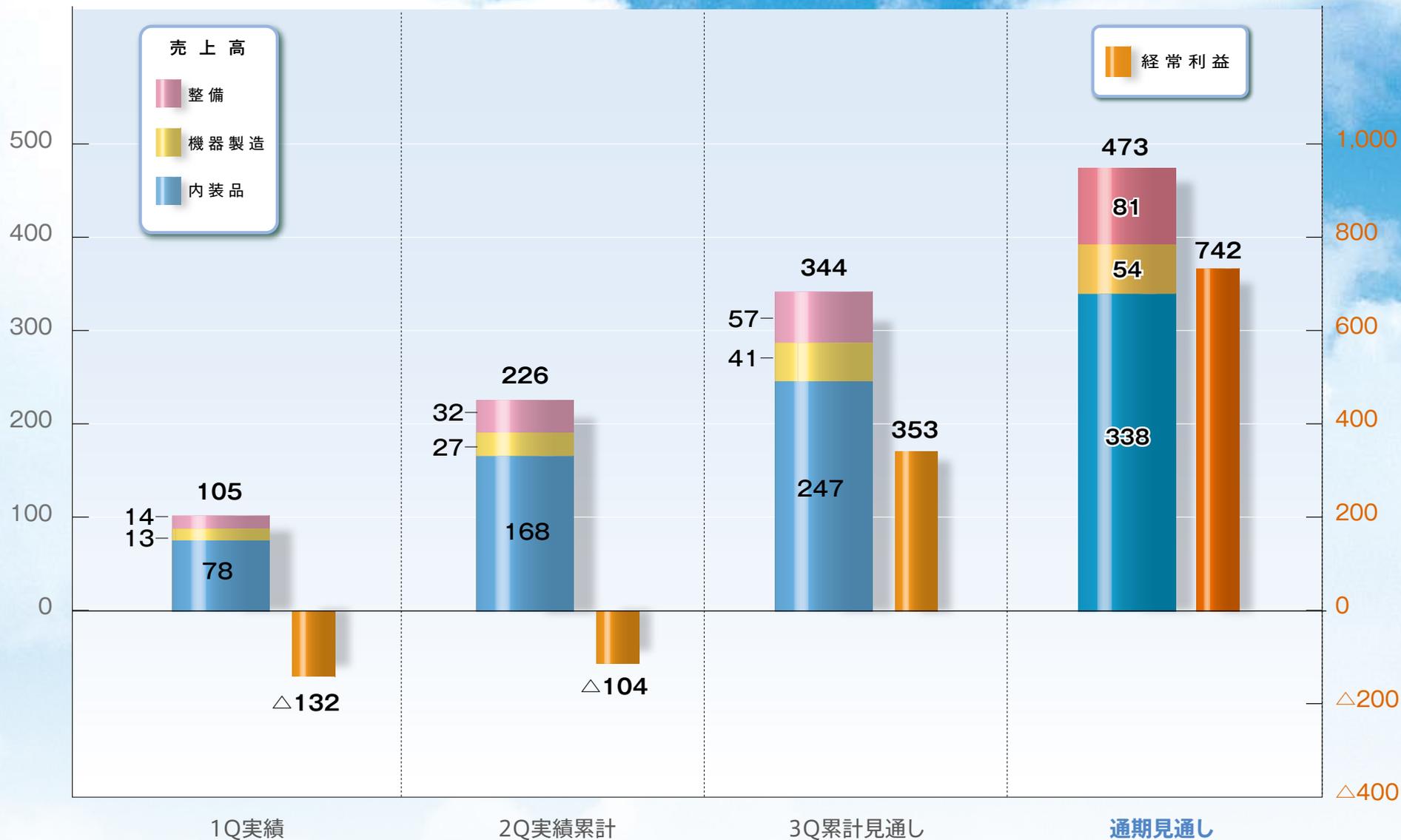
() 内数値は上期を示す。

(注) 当初計画とは、2012年5月11日の決算発表時の業績予想数値です。通期見通しの上期は実績値です。

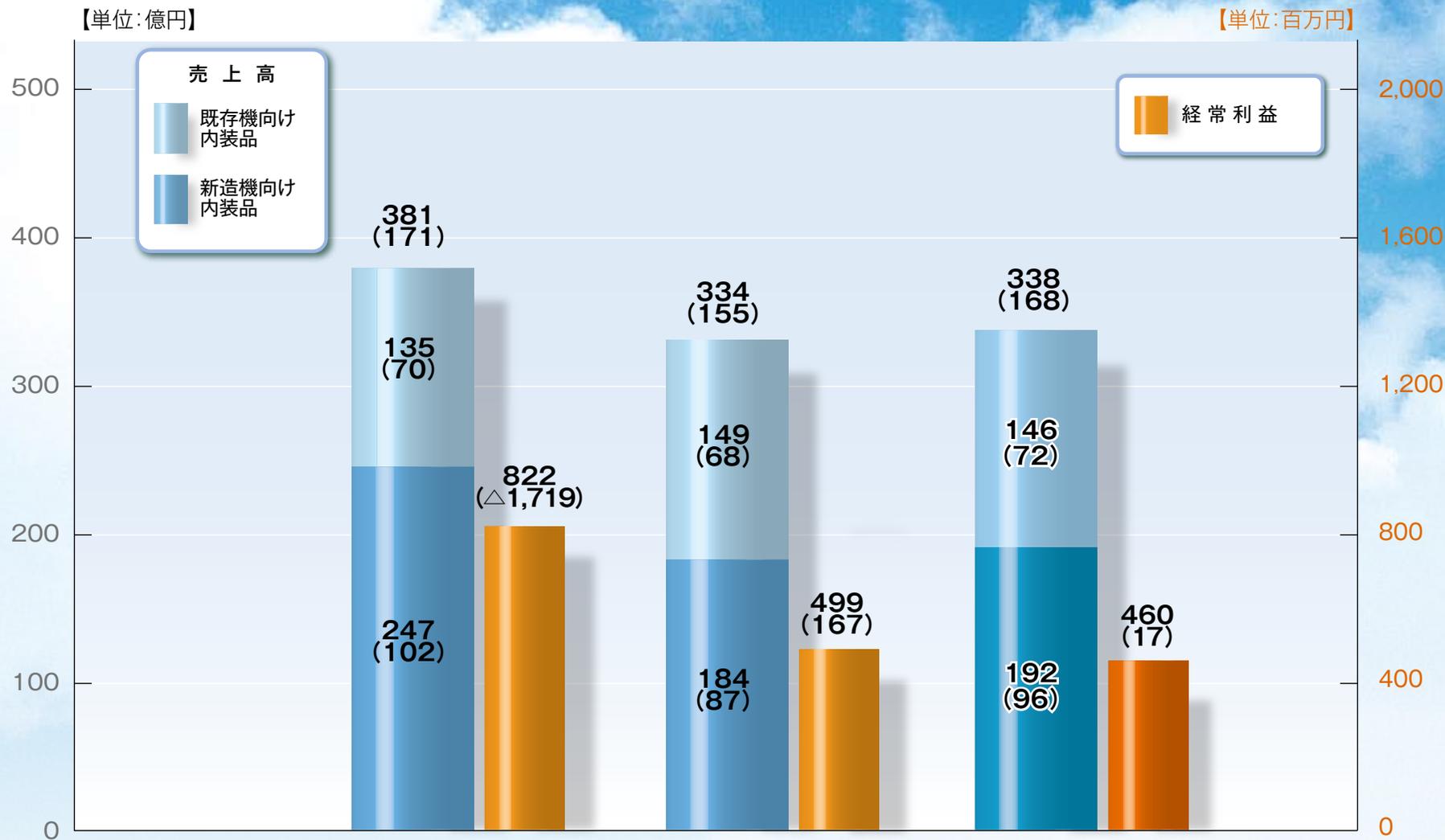
売上高／経常利益(連結四半期)

【単位：億円】

【単位：百万円】



内装品セグメント売上高／経常利益（連結）

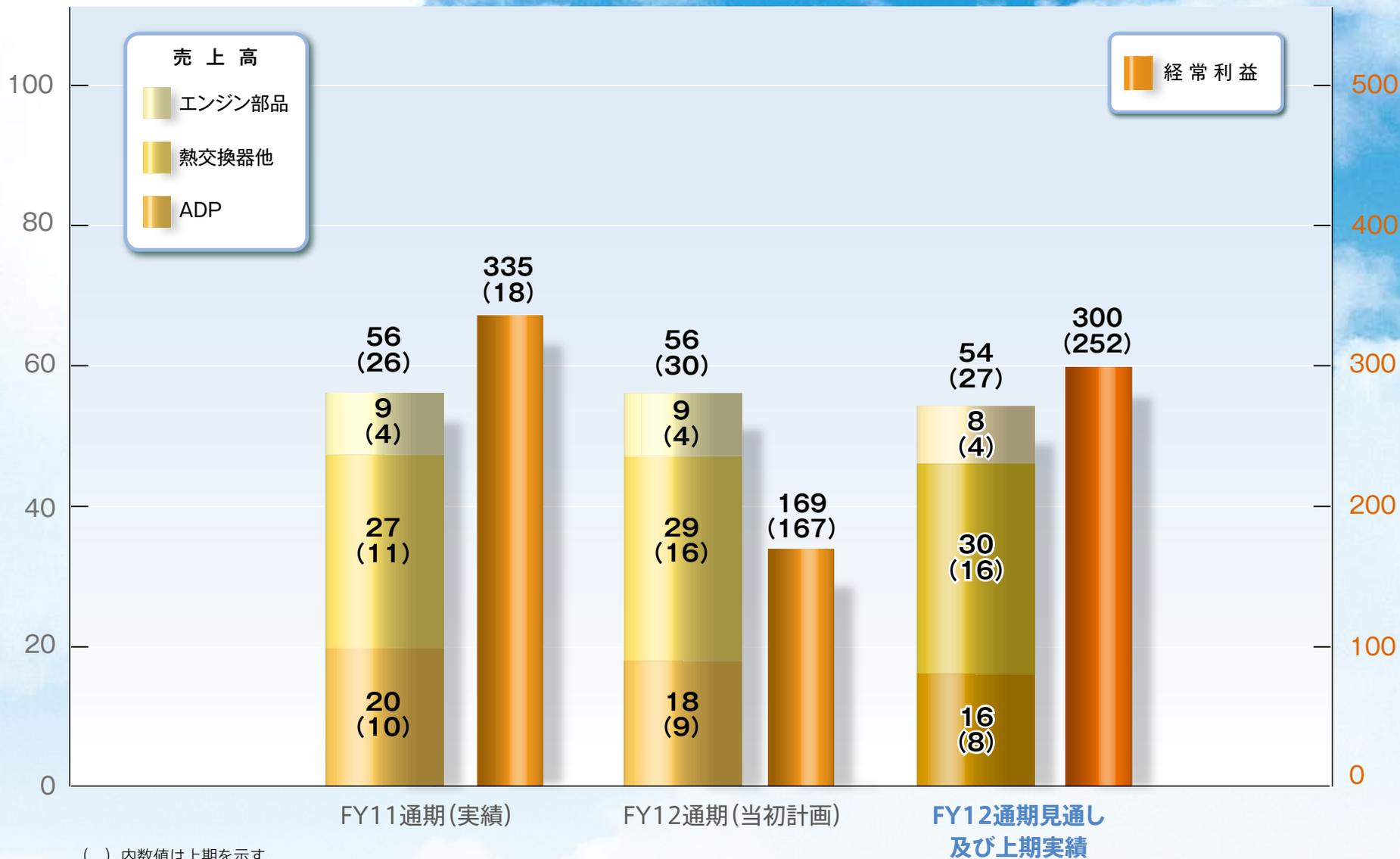


() 内数値は上期を示す。

(注) 当初計画とは2012年5月11日の決算発表時の業績予想数値です。通期見通しの上期は実績値です。

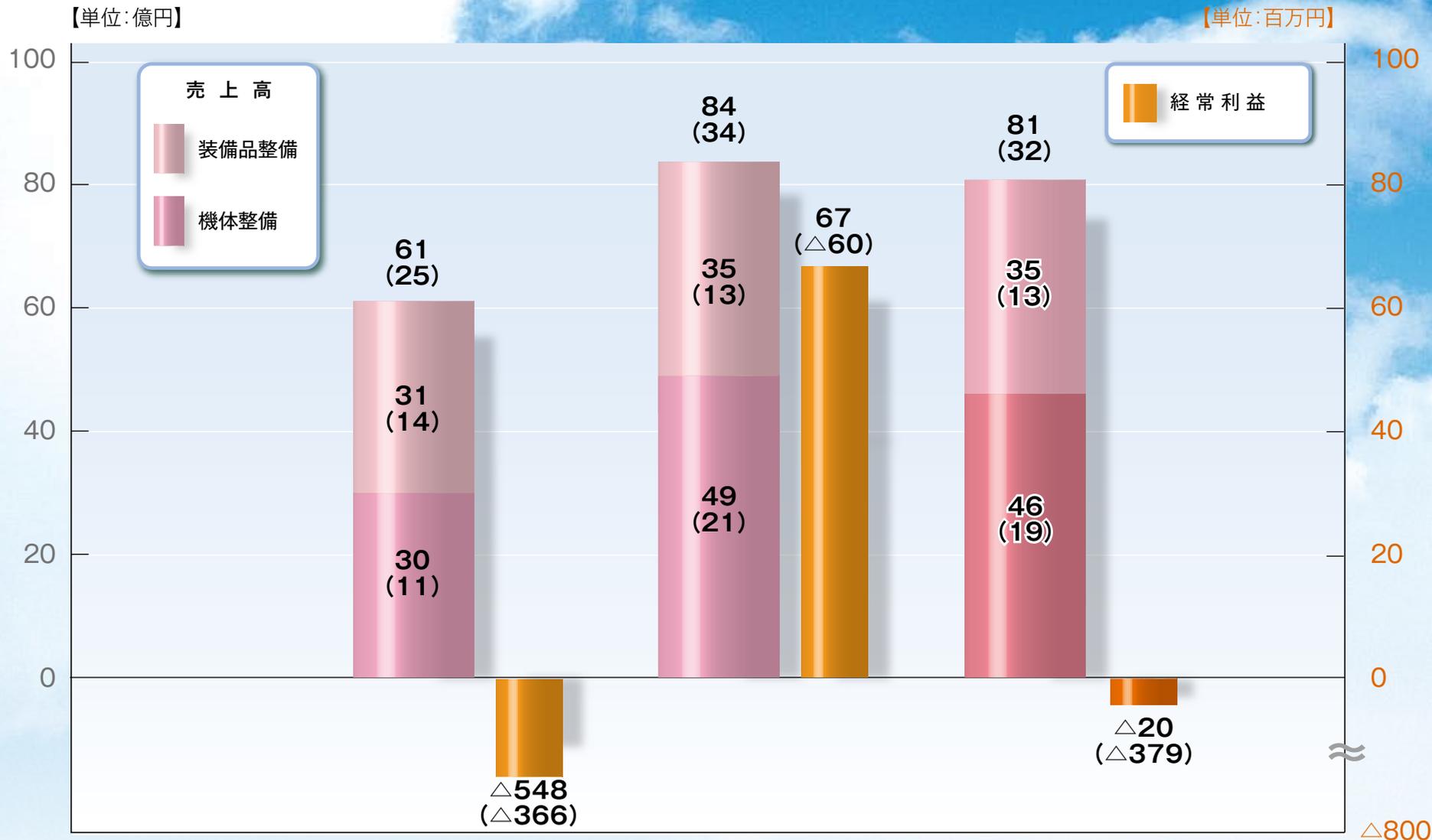
【単位：億円】

【単位：百万円】



(注) 当初計画とは、2012年5月11日の決算発表時の業績予想数値です。通期見通しの上期は実績値です。

整備セグメント 売上高／経常利益 (連結)



() 内数値は上期を示す。

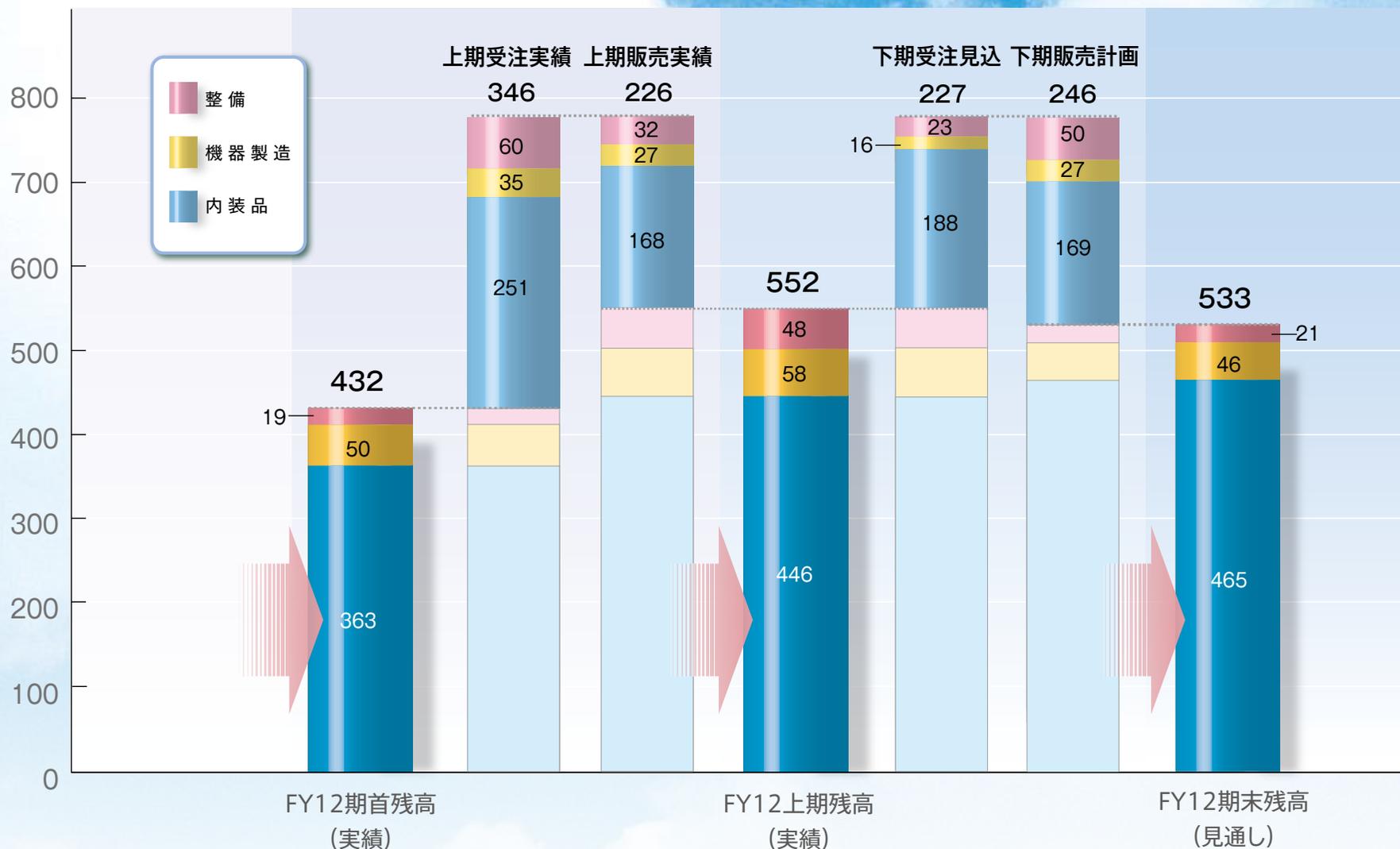
FY11通期(実績)

FY12通期(当初計画)

FY12通期見通し
及び上期実績

(注) 当初計画とは、2012年5月11日の決算発表時の業績予想数値です。通期見通しの上期は実績値です。

【単位：億円】



経営環境と今後の対応



経営環境と市場動向	19
今後の課題と対応	
● 内装品セグメント	22
● 機器製造セグメント	23
● 整備セグメント	24

- ① ボーイング、エアバスともに増産体制を本格化**
 - 787は現在月産5機から、2013年後半に月産10機へ
 - 777は現在月産7機から、2013年初頭に月産8.3機へ
 - 747-8は月産2機を維持
 - A350開発本格化

- ② エアラインは原油高や低価格競争により厳しい経営環境にある
燃費の良い新型機種を導入やLCCの設立、資本提携の活発化**

- ③ 為替相場は円高基調で推移すると想定し、中期3カ年計画は
78円/USドルで立案**

航空機メーカーの動向 (2012年9月末日時点)

● ボーイング社の受注残機数

狭胴機 2,845 機 (前年同期2,215機)

広胴機 1,299 機 (前年同期1,305機)

● エアバス社の受注残機数

狭胴機 3,364 機 (前年同期3,104機)

広胴機 1,050 機 (前年同期1,112機)

出所: Speed News Home Page 「COMMERCIAL JET AIRCRAFT PROGRAM STATUS REPORT: SEPTEMBER 30, 2012」より

新型旅客機の開発・生産状況

● 787の生産状況

- 2012年9月末日現在 受注残機数812機
- 2013年後半から月産10機を計画

● A350XWBの開発状況

- 2014年に就航する予定
- 2012年9月末日現在 受注残機数は558機

● A380の生産状況

- 2012年9月までに、84機引き渡し完了
- 2012年9月末日現在 受注残機数は173機

(注) 受注データについてはボーイング社、エアバス社HPより

① 787プログラムの効率的な増産体制の確立

- 2014年度には、787含むGalley全体で現行月産平均80ユニットが月産150ユニットへ
- エンジニアリング能力、生産能力、部品製作委託先能力の拡充

② 円高対策

- 海外子会社の活用によるコスト低減、及び海外調達率の引き上げ
- 円建て契約の推進

③ 新規事業の検討

- シート事業への本格参入を検討
- その他内装品事業の業容拡大

① コア製品である従来品(熱交換器等)の受注の確保と収益の向上

- 改善活動の推進
- 作業者の多能工化、及び作業の平準化
- 技能、知見の継承

② 宮城新工場の建設と移転準備

- 効率の良い工場配置
- 効率的な組織の構築

③ 航空機炭素繊維構造部材ADP事業の競争力向上と収益改善

- 改善活動の推進
- 内製化の促進

① 機体整備の受注確保と装備品整備の領域拡大

- 震災の影響を受けた仙台整備工場の受注確保と稼働率向上
- 装備品海外修理の受注

② 品質保証体制の強化

③ 事業効率の改善

- 事業規模に適した効率的な組織構造への再編

④ ITの活用

- 新基幹業務システム(AIOS)の運用定着

技術を翼に世界の空へ

 **Jamco**
ALWAYS FLY TOGETHER



Always Fly Together